

2019 年度

# 第 1 回 保育講演会

日 時 2019 年 6 月 14 日(金)

テーマ 「子どもと遊びと木育」

～コミュニケーションを豊かにするために～

講 師 多田 千尋先生

(東京おもちゃ美術館館長、認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会理事長)



2019 年度第 1 回の保育講演会は、東京おもちゃ美術館の館長を務めながら、木のおもちゃを取り入れた子育て<木育>を推進するなど多岐に渡ってご活躍をされている多田先生をお招きいたしました。今はスマートフォンや Youtube の存在が当たり前となり、おとなだけではなく子どもの生活も変化しています。

「遊びの栄養失調」にならず「遊びの栄養補給」をするために、私たちおとなには何ができるのでしょうか。

そんなことを考えさせられる講演会となりました。

(参加 81 名)

## 木育推進のおもちゃ美術館を目指して

元々は中野にあった東京おもちゃ美術館を四谷の廃校に移転させたのは、地域の方々からの寄付で造られた歴史ある建造物を取り壊さないでほしい、子どもたちの賑やかな声を取り戻したい、という地元住民の思いを受けてのことでした。

ご自身の「千尋」というお名前になぞらえて、千を尋ね、千の場所を訪ね、千の人に会うことをミッションとされている多田先生。

さまざまな人と出会い、アイデアを生み出して造られた全国第 1 号のおもちゃ美術館は初年度からたくさんの親子連れで賑わい、これまで延べ 15 万人が訪れています。

おもちゃのもり、おもちゃこうぼう、ゲームのへやなど、さまざまな部屋をまわって遊べるおもちゃ美術館の館内では、遊びを通してたくさんのことを知り、気づき、考えることができます。

遊びを伝える案内人としてのおもちゃ学芸員の方々が常にいて、ワクワクドキドキできる遊びを教えてくださいるので、あまり乗り気でなかったご家族も遊びに夢中になるようです。

**「人の気持ちを揺り動かし、世代を問わず訪れる方々の笑顔と会話を増やす」**

これがおもちゃ美術館の目指すところだそうです。

また、生活の中に地元の木を取り入れようという木の地産地消の考えにのっとり、館内の赤ちゃん広場や木のおもちゃには全国 12 ヲ所より集めた国産の杉を使用しています。

その温かく柔らかな空間は、<赤ちゃんが泣かない><母親がスマートフォンをいじらない><父親の滞在時間が長い>と多くの人々から好評で、日本各地の豊かな自然とその土地に伝わる文化を「おもちゃ」や「遊び」を通して受け継ぎ、育む空間として、秋田県や山口県などに姉妹おもちゃ美術館が設立されています。

多田先生の思いはどんどん広がり、美術館のみならずさまざまな企業からも国産の木材を使ったキッズルーム監修の依頼が届くそうで、みなとみらいにも 1 か所あるとのこと。

ぜひ探してみてください。

日本は世界 3 位の森林大国ですが、木材自給率はとても低く、週末を森で過ごす人も多くありません。地元の木材を使って、おもちゃ、遊び場、机、校舎などを積極的に作り、生活に取り入れることで、自分たちの住む場所のことを考え、森を意識することへつなげたいという思いから、多田先生は<Wood Start 宣言>という活動も行っており、活動の一環として小田原市では地元の木で作った木製おもちゃを新生児へのお祝い品として贈っています。

## 心が動けば 身体は動く

今まで体も動けず歩くこともできなかった、会話もなかったお年寄りが、子どもとの交流を通して心揺さぶられ、自ら歩いて行動をし、生き生きと変わっていったという実例。心が動かされると自然に体も動くようになることがある。このことはお年寄りだけでなく、すべてのおとな、子どもにも通じることです。そしてまた、多世代交流は大切なことです。

## 子ども、そしておとなにとって必要なこと

子どもにとって必要なもの



芸術というと崇高なものと捉えがちですが、実は子育てにおいて自然に行われています。中でも建築は積み木、砂遊び、ブロックなど子どもたちが夢中になる遊びの中核です。「芸術による感性が子どもを育てる」ということを心に留め、どのように芸術を遊び化させられるかが大切です。

アニメーション (スペイン語) ワクワクドキドキ・・・魂が身体の中で騒ぎ出す感じ  
アニメーター (スペイン語)・・・それを上手にプレゼンする人を指します

スペインには「アニメーション」「アニメーター」という言葉があります。「アニメーション」はワクワクドキドキ、「アニメーター」はそれを伝導する人を指します。英語では「アニメーション」は「アニメーション」、「アニメーター」は「アニメーター」。「アニメーション」をジブリの映画、「アニメーター」を宮崎駿監督だと考えると納得がいきます。幼児期は、人生の中で最も「遊び」を楽しむことができる時期で、**子どもは繰り返しを楽しむ天才**です。人類が生んだ最高の宝物である「遊び」を、おとなの都合や事情で奪ってははいけません。今はじっと待っているだけでも楽しいものがやってくる時代ですが、「知ること、気づいたこと、感じたこと」は子どもの感性に大きな影響を与え、それによって子どもの社会性はアップグレードします。私たち親ができることは、夢中になれることを見つけ、それを子どもに見せること。まさに自分自身が「アニメーター」になり、ワクワクドキドキを伝えていくのです。昔懐かしいコマを手のひらの上で回すことも、1週間もあればきっと出来るようになります。遊びの天才である子どもは、その姿を見て大喜びで駆け寄ってくることでしょ

お子さんとの遊びでお悩みの方はぜひ一度、東京おもちゃ美術館または全国の姉妹館を訪れてはいかがでしょうか。遊びのプロである学芸員さんからアドバイスをいただき、我が子の成長を再発見し、自身を癒し、そして親子の心を通わせることができることでしょ

(文責：広報委員たんぼぼ組 井上倫子 / 多嶋寿美子 / 千葉恵 / 森本夏海 / 湯浅江利子)

今から 23 年前、多田先生との出会いがあり、その時のお話の中で、「今、子どもから老人まで心の面、身体の面において遊びの栄養失調になっている、ファミコンの普及で一人でいられる状況になっている...とお話がありました。そしてその時に「アニメーション」<スペイン語>わくわくドキドキする経験をたくさんすることの大切さ、アニメーションのシャワーをたくさん浴びつつ、自分自身もアニメーターになることとお話してくださいました。それからずっと園ではそのことを伝えてきました。心配されていた時から 23 年。今の状況はその当時より悪い意味でもっとすずみ、コミュニケーションが苦手な人、社会とのかかわりができなくなっている人が増えています。けれども、根本的なこと、大切なことは変わっていないことを確信し、改めて感じることでしょ

参加された方より

あやめ 植竹 愛

1000 人の人と出会い、1000 回質問をするように…と「千尋」と名付けられた多田先生。お名前のおおりに、たくさんの方と出会い、いろいろなところで学ばれ、身近なことから世界的なことにまで行動にうつしてこられた素晴らしい先生でいらっしやいました。笑って聞いてしまいましたが、内容はとても大切なことばかりでした。

「親がアニメーションを感じていなければ、子どもに伝わらない。」  
私は我が子に楽しんでいる姿を見せているだろうか？繰り返しの天才を軽くあしらってしまっていないだろうか？頭ではわかっているけど日々の生活のなかで怒っている姿しか見せていないような気がして反省しました。

ウッドスタート宣言がいつか日本中ではじまるとよいと思いました。  
先生のお話から、受講料を支払っても、2500 円のエプロンを買ってもおもちゃ学芸員になりたい方々の気持ちがわかるような気がします。インクルーシブミュージアム、素敵です！！

さくら 横山 礼

「平和をこよなく愛し平和を自分の力でつくりあげる。その喜びがわかる子どもたちにするために。」

おとなたちが良い環境を作っていくことはやらなければならないこと。私たち親があたたかな空気の中で子育てしていかなくてはならないこと、それは毎日、毎日考えることですが子ども自身が平和や楽しいということをも自分の力で作っていく。考えたこともなかったです。

おうちに帰ったらすぐゲームの世界に1人でとびこみ、家族とも会話もなく数十分。そして気付いたら私はスマホ相手に難しい顔をしている。そんな日々がどれだけ続いているのかなあ。

何が楽しいか今の子どもに聞いたら「ゲーム！！」と返ってくるのでは？  
私に平和とは？と聞いたら「子どもたちが静かにしていること。」と私は答えてしまいそうです。

何からして良いのか難しく考えず身近なものに目を向けて子どもたちと一緒に楽しんでいきたいと思いました。

最後に我が家は子どもたちと祖父と一緒に生活をしています。ずっと寝っ転がっている祖父も「じーじー！相撲とろう！」としょっちゅう言われ今では色んな技を考えているようです。子どもたちが祖父世代と関わることは見ていて心がぬくぬくとしてきます。貴重なお時間をいただき感謝しております。

アネモネ白 水 玲

先生から子どもと一緒に歩いて登園することの素晴らしさを聞きました。うちも毎日歩いて登園していますが、それは大切なことだと思います。自然の美しさや不思議さや、親子の良いふれあいの場とか、毎日感謝する心を育みます。最近子どもたちの交通事故も多く、非常に心が痛いです。交通ルールを守ることは大切ですね。

アネモネ白 松浦佳奈子

ユーモアたっぷりの多田先生の講演、楽しく拝聴させて頂きました。  
野毛山幼稚園の先生方はまさにアニメトーレですね！私も自分自身が楽しむことを忘れずに、遊びの天才達と過ごしたいと思います。  
有意義な時間をありがとうございました。

さくら赤 池淵恵美子

ワクワクしていると心が動く！  
そして体が動く！人が動き、お金も動く！  
千尋先生のワクワクが全てを動かしていて、軽快なお話はあっという間でした。  
子供と共にワクワクを増やしていきたいです。ありがとうございました。

さくら白 黒澤 徳子

多田先生のお話は初めてでしたが、笑ったり、感動したりととても楽しい時間になりました。  
何事も子どもに伝えたい時には、まず自分が向きあい取り組もうと思いました。  
これからも子どもと共にアニメーション、魂が騒ぎだすような体験をしていきたいです。  
このような機会をいただき、ありがとうございました。



## アネモネ組

講演会とても楽しくお話を聞くことができ、時間が経つのを忘れてしまうくらいでした。三越やセブンイレブンなど会社のロゴには、いろんな意味があり興味深く聞いてました。できることならもっと聞きたかったです(笑)

アニメーション(アニメーション)の意味が魂であるとは初めて知りました。わくわくドキドキ!子どもたちも大好きですね!だからアニメは人気があるのですね。

また、子どもは繰り返しの天才!とありましたが、うちの子もプラレールの貨物のコンテナを積み上げたり、電車をキレイに並べたり動かしたり何度も繰り返して遊んでいます。

子どもは意外に歩く!とお話ありましたが、つい先日イベントでスタンプラリーなどしながら歩いていて、ふと万歩計をみたら、ナント15000歩!子どももほぼ抱っこしないで歩いていたので、こんなに歩けるものなの?とびっくりしたばかりでした。

老人施設のエイさんのお話をウルウルしながら聞いていましたが、確かに私の母もかなり高齢でしかも最近は何にもやる気無しで寝てばかりですが、息子が遊びに行くとはほぼ必ず起きてきてニコニコ話しています。

また、私の叔母は101歳で天国に行きましたが、0歳だった息子を施設に連れて行くだけで施設がパッと明るくなるような気がしてましたし、101歳の叔母が抱こうとしたりする行動にはびっくりでした。

なにより100歳差!1世紀の時の流れになんだかすごいものを感じました!

すべての話になるほど!と思うことができました。

私は、かなり怒ってばかりの育児をしてきた、いや現在もだと思えます。

でも、できることなら子どものやることを見守りつつ、一緒に共感していけたらいいなあと思えました。

そして、東京おもちゃ美術館に遊びに行きたいなあと思えました。

文章のまとまりがなくすみません。

講演会ありがとうございました。役員の方々、ありがとうございました。

## さくら白・アネモネ白 松本 亜由美

今回講演会に出席させていただき、多田先生の話を知り、私は親の都合で子どものことを考えていたと痛感しました。一緒に楽しむことより、いつしかいかに1日を過ごすかに重点を置いていました。子どもはくり返しの天才という話はまさしくそのとおりで、息子たちは絵本やカード遊びなど、同じことを何度も繰り返して見ます。私はその度に理由をつけて回避してしまっていました。しかし先生の話を知った今、とことん子どもたちのくり返しに付き合ってみようという気持ちになりました。

また遊びは芸術ということ、砂遊びは建築、まさしく砂遊びが大好きな息子たちの姿はまさしくその様です。子どもの遊びがこれからの未来につながる、そう思うともっと色々な遊びを取り入れたい、させてあげたい、楽しませてあげたいと思うようになりました。

親になり、遊びは子どもだけのものと思えてしまいましたが、私も遊びの栄養補給をして、子どもに負けないくらい遊びを楽しみたい。そしてその姿を見せて、一緒に楽しみたいとなりました。

## ひまわり・あやめ 木村華子

アニメーション。ワクワク・ドキドキ…心が動けば身体は動く。子ども達との交流で変わった、エイさんのお話を聞いて、心が熱くなりました。人は誰かの為に、してあげたいと思う気持ちが出来ると立って歩ける様になったり周りの人達の心も動かす事が出来るのだと知り感動しました。

悲しい事に、私自身もすっかりアニメーションを忘れていたなあと感じています。もう子ども達は、小学生になってしまいましたが、まだまだアニメーションを忘れないで一緒に楽しく遊んで、アニメーションをいっぱい共有したいなあと思えました。子ども達にとって少しでもアニメーターになれたら良いなあと思えます。素敵で豊かな時間を過ごさせて頂きありがとうございました。

## たんぽぽ白 森山智美

今回の講演会を通じて、これまでの育児で特別意識する事のなかった「木」の素晴らしさや五大芸術の必要性など、多くの気づきや学びを得られました。中でも先生の言葉で最も胸に刺さった言葉が「心が動けば身体が動く」でした。

心を動かす事を二の次にして、身体を動かす事を最優先しているのでは?という投げかけは、まさに現在その通りにしてしまっている私自身への言葉のように感じました。

幼稚園で大切にしている「アニメーション」大人の都合や思いだけを子供に押し付けるのではなく、子供がわくわくドキドキ出来るように、そしてそこから自主的に何かに取り組むことが出来るように、少しずつでも私自身が意識を持って変わっていきたいと思えました。

ありがとうございました。

アネモネ赤 渡邊 綾子

笑いあり、涙あり、素晴らしいお話しをありがとうございました。  
多田先生の貴重なお言葉一つ一つが、とても心に響きました。  
先生のルーツやご家族のお話し、東京おもちゃ美術館の立ち上げや市民の方と活動できるように工夫されていたお話しがとても興味深く、思わず聞き入ってしまいました。  
また、施設のご老人と保育園のお子さんとの関わりについての部分では思わずほろりと涙してしまいました。  
そして、「乳幼児は繰り返すを楽しむ天才」というお言葉が特に印象に残っております。  
昔から愛されて残されている絵本が特にその例ということで、帰宅して絵本を改めて眺めて見たところ、繰り返しの内容ばかりでした。そして、久しぶりに「おおきなかぶ」を読みたくなり、眠る前に読み聞かせ、試しに猫を飛ばしたところ、先生の仰っていたとおおり、気づかれました。  
子どもの繰り返しの、付き合うことを時に面倒に思っていた自分に反省しました。  
アニメトーレ（スペイン語でワクワドキドキドキをプレゼンテーションする大人の方）という言葉も初めて知ったのですが、子どものアニメトーレになるためには、自分自身がその背中を見せること、というお話しにハッとさせられました。  
また最後にお話ししてくださった「歩くことが好きな財産を子どもに残す」というお言葉、とても素敵だなと、思いました。幼稚園まで我が家もなるべく歩いて通っているのですが、毎日ツバメの成長を見たり、石や花を見つけたりしています。私も子どもに歩くことが好きになる財産を残したいと思いました。多田先生、素敵なお時間をありがとうございました。夏休み、ぜひ東京おもちゃ美術館に行ってみたいと思います。

たんぽぽ赤 長谷川美那

「今日もまたこの本読むの？」  
講演会の前日の夜、絵本を持ってきた息子にそんな言葉をかけたばかり。  
親は様々な経験をさせてきて、より多くの本を読んであげた方が良いのではとってしまうが子どもは繰り返しの天才で、繰り返すを楽しむのは乳幼児期だけという多田先生の言葉は私にとって深く考えさせられるものでした。  
映像で見えるおもちゃ美術館は、見ているだけで木で作られた素晴らしい遊具やおもちゃの数々に癒され、どこか懐かしい気持ちにさせてくれる本当に素敵な場所で、おもちゃ学芸員というボランティアになりたい方が大勢いることにも納得。  
便利な世の中になり、カラフルで自分で遊びを考えなくても楽しめるデジタルなおもちゃがあふれているけれど、乳幼児期こそアナログな自ら想像し工夫して遊ぶことが大切だということ。  
本来なら価値のない木材でも子どもにとっては価値のある素敵なおもちゃになるということ。  
多田先生のお話しは日々の生活に追われ忘れていた大切なことや懐かしい子どもの頃の気持ちを思い出させてくれました。  
幼児期はあっという間に過ぎてしまいます。明日からはたくさんアニメーションの経験ができるよう1日1日を大切に過ごし、そして息子が持ってくる絵本が毎回同じでも 快く受け入れ(笑)一緒に繰り返すを楽しみたいと思います。  
このような素晴らしい時間を与えて下さりありがとうございました。

アネモネ赤 松本祐美子

熱い思いが溢れた講演会をありがとうございました！  
親の都合で子供の遊びを制限してしまっていたところがあるので、初心にかえり、尊重していかうと思いました  
老人ホームのエイさんのお話は感動し、心次第というのを学ばせていただきました  
非常にプレゼン能力が高く美術館に是非行ってみたいと思いましたし、鉄道勤務の叔父にもオススメしてみたいと思いました

アネモネ組

子どもはくり返しを楽しむ天才で、親はすでにその楽しみを忘れた凡人一本当にそのとおりでなと思いました。日々、くり返しを楽しむ手伝いをと思いながら、「あら…またその本を…」「このフレーズ、そんなにおもしろいかな?？」と心の中でつぶやく自分がいます。でも、子どもは夢中になれるもの、好きなものにくり返し触れ、感性を磨き、成長していくことを心に留めて接していかないと、この幼少期の貴重な時間をともに過ごす楽しみも失ってしまいます。  
子どもに、わくわくどきどきの体験をとおして夢中になれるものを見つけてもらいたいと願うなら、親自身もそれを見つけて、わくわくする姿を見せることも大切だと思います。多田先生のお話を伺って、それを実践してご自身も歩んでこられた前向きな姿勢やパワーをひしひし感じました。  
経験にもとづいた、ユーモアあふれるお話を伺って、豊かな時間を与えていただきました。あり

### アネモネ赤 異 ひとみ

本日は貴重なお話を聞かせて頂きましてありがとうございました。先生、そして美術館のルーツ、あそびとは何か、またそのあそびの効果、様々な取組等、多岐にわたるお話の内容すべてが面白く、時間を忘れて引きこまれました。多田先生こそまさにアニメトーレですね。東京おもちゃ美術館へ娘と夫行ってみたいと心から思いました。

### アネモネ赤 佐藤有美

いちばん心に響いた言葉は「心が動けば、身体も動く」です。ひきこもりの問題の中心もこういうところにあるのではないかと思います。子供に対しても、日々心が動いているか子供の表情をよく見て、親の願望の押し付けをできるだけ控えて生活したいと思いました。エネルギーな講演をありがとうございました。

### ひまわり・あやめ組 森本やよい

多田先生の名前の由来や生い立ちから始まり、とても軽快で楽しいお話にすぐに引き込まれました。エイさんという老人施設にいる方のエピソードを聞き、急に祖母に会いたくなり講演会の翌日、息子たちと一緒に会いに行きました。我が家のおもちゃ箱に眠っていた「お月さまバランスゲーム」(エイさんが遊んでいた積み木)を持っていくと、時間を忘れるほど盛り上がり、祖母の表情も明るく生き生きとしていました。子どもたちとの交流が、活力の源なのだ実感しました。次男が卒園して3ヵ月、2人の息子たちは親と遊ぶよりもだんだん子ども同士で遊ぶ機会が増えてきました。幼稚園で培った遊びの経験を通して、いつまでもワクワクドキドキ楽しむアニメーションの気持ちを忘れずにいてもらいたいです。そのためには、まず自分がワクワクしている姿を子どもに見せる、アニメーションの子育てをこれから心掛けていきたいです。サプライズで、多田先生がコマ(つばめがえしという技)を披露してくださいました。まさしく先生はアニメトーレです！素晴らしいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

### さくら白 菅野 美嘉

講演会で、多田先生のお話を伺って言葉の力を感じました。子どもたちが、何度も同じ本を読んだり、子ども番組や映画を観ていると、心の中でそろそろ違うものがないかと感じたことがあります。今回、多田先生が「子どもは繰り返しを楽しむ天才です。」というお話をして下さり、我が家の子どもの行動が意味のある大事なものと気付くことができました。現在、我が家の繰り返しを楽しむ天才たちはパブリカの曲をほぼ毎日何回も歌い、踊っています。二人で協力してステージを作ったり、交代でオーディション、本番と役割分担をして、かわいいワンピースに着替えて舞台を楽しんでいます。私も、以前より子どもたちの繰り返しを温かい目で見守ることができるようになりました。子育ては大変なことも多いですが、教えて頂いた子どものわくわくドキドキを、今まで以上に大切にしていきたいと思います。私自身もわくわくドキドキしながら日々を過ごしたいです。



### さくら白 奥平つむぎ

どんな木育の話をしていただけるのかと楽しみにしていましたが、私も自分の先祖のルーツにとっても興味があり、多田館長のご先祖様が広島県の百島の海賊なのではというファミリーヒストリーのような話に序章から引き込まれました。娘を連れて祖母のいる特養施設に行った時に、祖母を始め回りの方達が娘によく声をかけてくれていたので、お年寄りの集まる場所に子供の遊び場を作って、お年寄りが子供と触れ合う事で生き生きとしている多世代交流の場があるのは素晴らしいと思いました。日本の森林率が世界第三位なのに木材自給率が低いという話では、赤ちゃんの時に日本製の木のおもちゃで遊ぶ事から始まり、亡くなる時には好みの木材の棺桶で人生を終えるという、ウッドスタート、ウッドエンドという日本の木材を活用する試みも素敵なお話で実践してみたいと思いました。休日になると商業施設に行ってしまうがちですが、檜原村のような都心から程近く、森と水の豊かな場所に休日に子供と遊びに行き、自然の中で木のおもちゃで遊ぶなんて想像するだけで癒され、木のおもちゃの村ができるのがとても楽しみです。東京のおもちゃ美術館が廃校を利用しているのも古い建築物が好きな私には興味深く、小さな子供がおもちゃで遊べるだけでなく、10代の子や大人にもノスタルジックな雰囲気のある小学校を見る楽しみがあり、とても良いアイデアだと思いました。いつか水戸岡さんデザインの子供が遊べる列車に乗り、九州に行きたいと考えていたのですが、秋田の鳥海山・木のおもちゃ美術館に行くのに、由利高原鉄道のおもちゃ列車に乗れば、それは素敵な旅ができそうで近いうちに是非行ってみようと思います。

多田先生のお話が面白く、あっという間に時間が過ぎていました。お話をきいて、出産祝いに頂いたものの、その後あまり遊んでいなかった白木の積み木と一緒にあそびました。何を作ってくれるのか楽しみに眺めようと思っていたのですが、子ははじめは何をつくっていいのかわからないようでした。私がロケットにみたてて積み木をつんでいると真似をして同じものが作りたいようで、「丸の長い積み木がないんだけど、ママさがして」と言っていました。だんだんと「もっと高くしよう」とか「お城みたいだね」と想像力をふくらましてきてくれました。最後には滑り台がついた、食堂があるお城でお茶会をして楽しみました。自宅ではついついテレビを見せしめることが多いので、普段からもっとシンプルなおもちゃで、一緒になって楽しむこともしようと思いました。多田先生がおしゃっていた「心が動けば身体も動く」との言葉を大切にすごしていきたいです。

専業主婦で子育てをしていると、つい母親である自分ばかりが子供を育てているような気持ちになります。自分などは実は子育てなんて全く向いていないんじゃないかとたまに思います。多田千尋先生の老人ホームでのエピソードを聞き、実際、子供は母親だけに育てられているのではなく、世代や血縁を超えた広い世界の中でこそ伸び伸びと育っていて、親はその一部でしかないんだなと感じました。実家には大正生まれの祖母がおりますが、日がな一日テレビを観ているだけだった祖母が、息子と一時間でも楽しそうにただ会話をしていたことを思い出します。また、「おもちゃ美術館」では、お父さんにも居心地が良く、大人もつい遊んでしまうといえます。毎日子供といると、つい「子供を遊ばせる」ことばかり考えがちですが、「子供と一緒に遊ぶ」ことはなかなかできていないことに気がきました。私の郷里にも来年「おもちゃ美術館」がオープンするそうです。小学校の通学路にあったそのデパートは、当時はまさに街のシンボリックな存在で、数年前に廃業したときは非常に残念でした。それが多くの人の力で残り、「おもちゃ美術館」ができることを知って、今回の講演会を拝聴できたご縁と共に、感謝の気持ちでいっぱいです。来年、息子と祖母と一緒に行くのが楽しみです。



ちょうど1年前に東京おもちゃ美術館を訪れました。ままごと遊びができる「ごっこハウス」で、木でできた大根を畑から抜いては戻す、という作業を、子供が何度も繰り返して楽しんでいました。親子で夢中になれるおもちゃもたくさんあり、木の温もりと香りに癒されながら、大人も子供も満足して帰ってきたことを覚えています。もちろん、おもちゃ芸員の方々にも遊んでもらい、赤ちゃん木育広場ではお決まりの木のトンネルで写真も撮ってきました。ですから、本日の多田先生の講演会を楽しみにしておりました。多田先生の生い立ちから、おもちゃ美術館を移転するまでの裏話など興味深いお話に続き、企業ロゴマークに隠された意味では、セブンイレブンのロゴに驚きました。何度も目にしているのになぜ気付かなかったのだろうと、自分が恥ずかしくなりました。子供には、何気ない日常の中から新しい発見や変化に気づき、疑問を抱く心を持ってもらいたいと思いつつも、逆に子供に気付かされることも多く、まだまだ知らないことばかりだと日々勉強させられています。子供は“繰り返して楽しむ天才”であるのに、その楽しみを奪ってはいなかったらどうか？ “わくわくドキドキ”しながら取り組む姿を子供に見せることができているだろうか？ 多田先生の多岐にわたる好奇心、高齢者福祉支援、木育などの幅広いお話から、多くのことを学び、私自身を見つめ直すきっかけをいただきました。素敵なお話の数々、大変貴重な機会をいただきましてどうもありがとうございました。家に帰るなり、早速子供と一緒に本気で積み木あそびをしました。近々東京おもちゃ美術館に足を運びたいと思います。

